

Close-up Interview (12月号 表紙の顔)

大嶋 有香

YUKA OSHIMA

再上昇軌道に乗った“次代のエース候補”

「今の調子がいつまで続くか分かりませんが、できるだけ前向きに頑張ります(笑)」

デビュー5年目、27歳のサウスポー・大嶋有香プロ。ジュニア時代から全国大会で活躍し、全日本ユースナショナルチームメンバーとして海外でも優勝を経験。プロ入り後も3年目(2018年)のJLBCプリンスカップを制し、すでにタイトルホルダーの仲間入りを果たしている“次代のエース候補”のひとりだ。第1シード入りして臨んだ昨シーズンはやや低迷したが、今季は8月のレディース新人戦から5戦して3位入賞が2回と再上昇軌道に乗り、待望の2勝目が視界に入ってきた——。(PHOTO:馬場高志)

実は運動嫌い!?

ボウリングは、幼少のころから「生活の一部」として大嶋プロの身近にあったという。

「両親が新狭山グラウンドボウルの会員ボウラーで、私が3歳のころから、6歳上の兄を含めた家族4人でボウリングをしていました。投げないときでもずっとボウリング場にいた記憶があって、スタッフさんや周囲の人たちに見守られて育ちました(笑)」

小学校4年生のときにJBCへ入会。だが、その理由は決して前向きなものではなかった。

「そのころ、父と一緒にゴルフをやったりもしていたのですが、『ボウリングとゴルフ、どちらを本気でやりたい?』と聞かれてボウリングを選びました。実は運動嫌いで、あまり動くことが好きじゃないから、広いコースを回るゴルフより、ボウリングのほうが楽だな、と(笑)。でも、小学生の中でひときり上手かった向谷美咲選手と仲よくさせてもらって、彼女を目標に練習を頑張って、アベレージは200台に乗っていました」

中学時代もボウリングの練習を日課として過ごし、高校はボウリング部のある堀越高校へ。スポーツに特化した育英コースで「4時限目以降はボウリングをしていればよかった」そうだ。

“もうひとつ別の夢”

小・中・高を通じて全国大会では常に上位入賞を果たし、高校1年時には大分国体の少年女子個人戦で優勝。全日本ユースナショナルチームのメンバーとして海外でも活躍したが、高校卒業後は諸事情で大学進学を諦め、一時ボウリングとは無縁の仕事に就いた。

「そしたら本当にボウリングをする時間がなくなって、ナ

ショナルチームの活動もできなくなりました」

その様子を見かねた? JBC赤木恭平会長(当時)の勧めで所沢スターレーンの社員スタッフに転じ、再びボウリング中心の生活に戻ったが、当時の彼女は内心“もうひとつ別の夢”に思いを馳せていたようだ。

「普通の女の子の生活に憧れていたんです(笑)。早く結婚して子供を産んで…という夢を描いていて、ボウリングはアマ

レーニングをしたり、食べたことのない料理を作って食べてみたり、ダイエットをしたりと、普通の女の子らしい生活をつかの間ながら満喫したようだ。

テールエンドからの逆襲

気持ちをリフレッシュして臨んだ今季初戦は、自身を含む同期4人が決勝トーナメントに勝ち進んだ9月の新人戦。5年目のラストチャンスにVはならずも、3位入賞と好スタートを



▲(左)ロケ撮はスポンサーの一つであるNEW ERAのロングワンピース姿で(右)サウスポーらしい、ゆったりとした投球フォーム。ひとたびハマったときの爆発力には定評がある

チュアとして楽しみたい、と」後のプロ入りは「両親の強い要望だった」という。

「小さいころから時間もお金もかけて腕を磨いてきたのに、諦めるのはもったいない」と。葛藤はありましたが、最後は親孝行のつもりでプロ入りを決めました。思えば、昔から自分が勝つことで周りの人が喜んで、褒めてくれるのがうれしくて、その人たちのために投げ続けていましたから(笑)」

ちなみに、今春の“コロナ自粛”の期間には「ボウリングのためではなく、痩せるためのト

切ったが、続くレギュラーツアーの3戦は惨憺たる結果に終わる。

「六甲クイーンズとクリスタルカップは、ずっとボーダー(カットライン)付近にいて、焦りが出た最後の1ゲームで予選落ち。一度緊張し始めると、どうにもならなくなってしまうんですよ(苦笑)」

新設大会の大岡産業レディースでは「短気な性格で、我慢することが苦手」な自身の短所が全開してしまったという。

「同じ予選落ちでも、ずっと我慢していれば70位以内には



収まったと思うけど、翌日ラインをチェンジして、最下位(89位)まで落ちるボカをしてしまった。ドベというのはさすがにショックでしたね」

その失敗と反省を糧に、APAの大会では我慢のボウリングでTV決勝進出を果たし、3位決定戦で姫路麗プロとピン差の大接戦を演じた。

「APAでは右も左もレーン攻略に苦しんで、予選ではどんどんボーダーのアベレージが下がっていったから、自分も我慢が利いて、ローゲームのあとでもうまく気持ちを切り替えて、次のゲームで挽回することができました。姫路プロとの対戦では改めてスピアの大切さを知った半面、これまでこぞというときに割ってしまう(スプリットを出す)ことが多かったのに、割らずに終わったのは、自分的には進歩したかな、と。これからも自分の中にひとつでもいいところを見つけて、プラス思考でいきたいと思います(笑)」

直近のJPBA★SSSカップでも決勝シュートアウトまで勝ち進み、4位入賞を果たした大嶋プロ。再上昇軌道に乗ったとみていいだろう。

ところで、P★リーガーでもある大嶋プロのキャッチフレーズは“気まぐれヴィーナス”。その由来は何なのだろう?

「じっさい気まぐれで、常に気分で行動するタイプなんです(笑)。ボウリングも、イケると思ったときはグワ〜と行けるし、ダメだと思ったらズ〜と下がっちゃう。ゲーム展開を見切るのが早いんです。ナシヨナ

ルチームの時代は仲間とフォローし合って、自分もチームのために何ができるかを常に考えながら投げたいけれど、ライン取りもボールの選択も、自分のことはすべて自分でやるのがプロの世界。今の私にはそこがなかなか難しいし、キツイ部分ですね。だから目標も、あまり高く設定し過ぎるとダメで、今できることを精一杯やるというくらいの気持ちのほうがいい。今の調子がいつまで続くか分かりませんが、できるだけ前向きに頑張ります(笑)」

取材協力:トミコシ高島平ボウル

大嶋プロと一緒に投げよう! 近日開催のチャレンジマッチ

●12月20日
東京・平和島スターボウル

●12月24日
ラウンドワンLIVEチャレンジ
ダイバーシティ東京プラザ店(配信店舗)

●12月25日
東京・トミコシ高島平ボウル

●12月30日
埼玉・浦和スプリングレーンズ



おおしま・ゆか / 1993年11月27日生まれ、埼玉県出身。165cm、左投げ。血液型B。2016年プロ入り(49期/ライセンスNo545)。優勝1回、公認パフェクト2回。昨年度ポイントランキング38位、アベレージ202.66。P★League 優勝2回。トミコシ高島平ボウル所属。